

事業名称		達成状況の評価
事業名	道路改築事業	A
整理番号	25-3	目標を完全に達成した。(達成割合100%)
事業の種類	道路(国道、県道、農道、林道)の新設・改築 及び街路の整備	
市町村名	飯山市	配慮した項目 30
箇所名	(一)曾根藤ノ木線 外様	= 100%
事業年度	平成23年度～令和2年度事業	
事業概要		
目的	道路の拡幅及び歩道の整備により、車両の安全かつ円滑な通行及び歩行者の安全を確保する。	
事業概要	道路築造工 L=1.1km 幅員W=5.5(10.25)m	
関連する事業計画	特になし	
その他特記事項	特になし	
関係法令等の規制		
自然環境保全地域等の指定状況	なし	
土地利用規制の状況	農地法の農地または採草放牧地 農振法の農業振興地域	鳥獣保護法の鳥獣保護区
その他	なし	
自然的環境要素	環境配慮の方針	環境配慮の実施内容 (環境配慮の方針と異なる場合はその理由)
大気環境	【大気汚染の防止】	
	・資材等の運搬ルートは、居住系地域内の走行は出来るだけ避ける。	適正に実施
	・交通流の円滑化により大気汚染、騒音、振動の発生を防止する。	適正に実施
	・土砂表層の散水や道路の散水、車両や機械の清掃等を行い粉じんの飛散を防止する。	適正に実施
	・排出ガス対策型の車両や機械を採用する。	適正に実施
	【騒音、振動の防止】	
	・夜間・早朝の資材運搬及び機械の稼働を出来るだけ避ける。	適正に実施
	・著しい騒音、振動を発生する工法を避ける。	適正に実施
	・低騒音・低振動型の建設機械を採用する。	適正に実施
	水環境	【水質汚濁の防止】
・工事仮設事務所からの生活雑排水を適正に処理する。		適正に実施
【水循環の保全】		
・水田や地下水・湧水を保全する。		適正に実施
・地下水を使用しない又は使用量を削減する。		適正に実施
地形・地質	【改変面積の最小化】	
	・地形の改変の少ない位置・ルート・工法を選定する。	適正に実施
	・段階的に工事を行い、広範な裸地の出現を防止する。	適正に実施
	・工事により裸地化する箇所は早期の緑化・植栽を行う。	適正に実施
	・工事施工ヤードの設置は必要最小限の面積とする。	適正に実施
	・法面の勾配の検討、適切な崩壊防止工法の選定、排水工、緑化工等により、崩壊その他の危険性を防止する。	適正に実施
野生動植物	【動植物への負担の少ない形状・素材の使用】	
	・自然石、自然素材又は多自然型製品等動植物への負荷の少ない素材を使用する。	適正に実施
景観	【すぐれた景観の保全】	
	・主要な景観資源の改変を出来るだけ避け、影響を及ぼすおそれがある場合は修景に努める。	適正に実施
	・工事箇所の整理整頓・美化に努め、仮施設や資材置き場は目立ちにくい配置にする。	適正に実施
	【良好な景観の育成】	
	・周辺地域の環境との調和に配慮した施設の配置・規模・形態・意匠・色彩・素材等を検討する。	適正に実施
	・樹木の伐採は出来るだけ避ける又は植樹等による緑化に努める。	適正に実施

自然とのふれあい	【自然とのふれあいの場への立地の回避】	
	・不特定多数の人が利用している自然とのふれあいの場又はふれあい活動に重大な影響を与える周辺環境の改変を出来るだけ避ける。	適正に実施
文化財等	【文化財等への配慮】	
	・原則として史跡・名勝・天然記念物の指定地内への立地は避ける。また、史跡等の周辺や埋蔵文化財を包蔵する可能性の高い土地への立地を出来るだけ避ける。	適正に実施
廃棄物・ 建設残土	【建設廃棄物や建設残土の発生抑制】	
	・建設副産物の発生を抑制する施設配置、線形、工法、資材などの採用に努める。	適正に実施
	・建設廃棄物や建設残土の適正処理を行う。	適正に実施
	【建設廃棄物や建設残土のリサイクル】	
	・現場発生材の原位置リサイクル等、建設廃棄物や建設残土のリサイクルを推進する。	適正に実施
	【資源の有効利用】	
	・再生As合材、再生骨材、木材チップ、建設汚泥改良土等再生資材の利用に努める。	適正に実施
	・信州リサイクル認定製品の利用を推進する。	適正に実施
省資源・ 省エネルギー・ 温室効果ガス	【環境への負荷の少ない機械の利用等】	
	・低燃費型建設機械や省エネ機構搭載型建設機械を積極的に使用する。	適正に実施
	・アイドルストップ、エンジン回転数の抑制等機械の省エネ運転に努める。	適正に実施
	・点検整備を行い適正な燃費消費率を維持する。	適正に実施